

平成21年5月16日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2008

課題番号：18320039

研究課題名（和文） 室町後期禁裏本の復元的研究

研究課題名（英文） RECOVERY INVESTIGATION OF KINRI-BON IN END AGE OF MUROMACHI

研究代表者

武井 和人（TAKEI KAZUTO）

埼玉大学・教養学部・教授

研究者番号：80154962

研究成果の概要：

本研究は、江戸初期に焼失した禁裏本について、室町後期という時代を設定した上で、その総体的な復元を企図したものである。

時間的な制約が多く、全体的な復元には至らなかったものの、個別の典籍（特に勅撰二十一代集）においては、相当程度、禁裏本の姿を明確にすることが出来た。

また、禁裏本が置かれていた環境論という側面においても、新知見を得ることが出来、学界に対して多大なる貢献が期待される成果を得ることが出来た。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2007年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2008年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
年度			
年度			
総計	10,400,000	3,120,000	13,520,000

研究分野：日本文学・書誌学・古典籍学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：古典籍、薬師寺、禁裏本、官本、持明院家、勅撰集、山科家

1. 研究開始当初の背景

従来の古典文学研究において、伝本研究は、一般的に個別の作品個々について調査・論究されて来た。

しかし、いつの時代においても、典籍は、あるまとまりをもって所蔵され、活用され、享受されて来たことをも、われわれ研究者は均しく認識すべきである。このような視点か

ら、ある時期におけるマスとしての古典籍群の復元という研究が、現在、緊急に求められていると思われる。

このような研究状況を踏まえ、本研究では、比較的研究が進捗していない室町後期における禁裏本（特に、応仁・文明の乱以後形成された禁裏本）の復元を目指したものである。

2. 研究の目的

本研究は、中世において、恐らく最大のライブラリであつたらうと想像される禁裏本を復元することを目指す。

あわせて、中世禁裏本がその後の古典研究・享受に、どのように活用されたかも追尋する。

3. 研究の方法

(1) 室町前期禁裏本の実態

『新統古今集』撰進をめぐる過程を再吟味することにより、その一端を明らかにした。

(2) 調査する古典籍の試行的調査、及び、本格的調査（撮影を含む）

時間的・予算的制約により、また、事前にある程度調査が進んでいて、研究成果が予測できるものとして、以下の典籍を調査し、必要に応じて、紙焼を入手した。

①宮内庁書陵部蔵「二十一代集」

(吉田兼右筆、510-13)

※原本調査

②宮内庁書陵部蔵「二十一代集」

(飛鳥井雅章筆、508-208)

※原本調査

③国立歴史博物館蔵高松宮家伝来「二十一代集」

(H-600-422)

※紙焼を入手

(3) 既刊古典籍目録類による奥書・識語調査

刊行されている古典籍目録類を調査し、室町後期禁裏本に関する痕跡・情報を蒐集し、整理する。

(4) 室町後期における古記録類による禁裏本に関わる記事の蒐集及び分析

対象とする古記録を二点に絞った。

①言国卿記・言継卿記・言経卿記

※山科家と禁裏本との接点、所掲典籍調査

②天理図書館蔵卜部兼右自筆『兼右卿記』

※原本調査・紙焼蒐集

※該書は未公刊記録

(5) 新資料の探索及び考究

既に知られている禁裏蔵書目録（三種）の他に、焼失以前の禁裏本に関わる目録が存しないか、資料の博搜に努める。

(6) 個別の古典籍から、焼失以前の禁裏本を復元する

(7) 禁裏本周辺の典籍から、禁裏本を逆照

射する試みを行う。

(8) 年1回以上のシンポジウム・研究会を開催し、研究成果の共有をはかるとともに、論文の礎稿作成も企図する。

4. 研究の成果

概ね前項「3. 研究の方法」の記載順に整理して掲出する。

(1) 室町前期禁裏本の実態

貞成親王『看聞日記』の記事及び『新統古今集』

の諸伝本を再検討することにより、「伏見宮本は、持明院統の蔵書群を受け継いだもので、永享期に伏見宮家から將軍家に献上された『玉葉集』奏覧本にもその一端が見出される。文明期までに禁裏に伝来した『玉葉集』は、奏覧後に補訂や精撰を経た伝本であった。一方、『新統古今集』の撰集は、禁中に和歌所が置かれた上、撰歌資料の収集も後花園天皇の伏見宮本の収書活動の延長線上に位置する。ところが、永享一〇年の『新統古今集』第一次奏覧の後に、天皇は禁裏御本の国書全般の充実に意を用い、撰歌作業の中心は雅世の私邸に移っていた。天理大学本に本文の面影を残す第一次奏覧本は、嘉吉の変によって焼失したが、文安四年の第二次奏覧では堯孝筆の中書本が切出・切継の基盤となった。また、この第二次奏覧にも後花園天皇も関わり、『新統古今集』は親撰的な性格を有している。文明年間に『新統古今集』が二度に亘り書写されたが、禁裏において書写され後代に流布したのは、『玉葉集』等と同様に、奏覧後に補訂や切出が成された伝本であった」と結論付けた。この結論は、次項(2)-①の議論に密接に関わることとなる。

※この項は、酒井茂幸の調査・研究成果に基づく。

(2) 古典籍の調査に基づく禁裏本の復元

①禁裏本二十一代集の奥書・識語集成

前掲3本を調査し、奥書・識語を集成するとともに、本文系統に関しても一定の見通しを得るに至った。

※この調査・研究は、石澤一志・中條敦仁が専ら担当した。

②禁裏本なる概念の確定

以下の古典籍を調査し、禁裏本と仙洞本・後宮本・東宮本・親王本・内親王本との境界をどのあたりに設定すべきか、という新たな問題を導き出した。

*早稲田大学図書館蔵甘露寺親長筆『拾遺和歌集』

[へ〇四一〇四二七五]

※この項は、武井和人の調査・研究成果に基づく。

③禁裏本と官本・禁本

以下の古典籍を調査し、学術用語として、禁裏本と官本・禁本等の差異を認定すべきか否かという問題を導き出した。

*三条西家旧蔵『禁秘抄』

*東京帝国大学国語研究室蔵『俊頼髓脳』

※関東大震災にて焼失

*京都大学附属図書館蔵『万葉集』〔〇四一〇二三/マ/〇二貴別〕

*東北大学附属図書館狩野文庫蔵『四季物語』他

※この項は、武井和人の調査・研究成果に基づく。

(3) 既刊古典籍目録類による奥書・識語調査

この項目に関しては、収集されたDATAが少なく、その成果を総体として公開するには至らなかった。ただし、個々の論文の中で、その成果は活かされている。

(4) 室町後期における古記録類による禁裏本に関する記事の蒐集及び分析

二つ、成果をあげることが出来た。

一つは、『言継卿記』『言経卿記』の記事を丹念に追うことにより、山科家本謡本と禁裏蔵謡本との往還を具体的に明らかにすることが出来た。

※この項は、伊藤慎吾の調査・研究成果に基づく。

いま一つは、『言国経記』に見える書名索引を完成させた。これは、山科家蔵書と禁裏本との往還を考察する上で、最も基礎的な資料となるものである。

※この項は、相原宏美の調査・研究成果に基づく。

(5) 新資料の探索及び考究

学界未紹介の新資料である上野学園大学日本音楽史研究所『禁裏御文庫楽書并御楽器之目録』を調査し、焼失以前の禁裏本及び禁裏所蔵楽器の目録である可能性を追究した。

※この項は、田中幸江の調査・研究成果に基づく。

(6) 個別の古典籍から、焼失以前の禁裏本を復元する

この項に関しては、多数の成果が得られたが、一点記載しておく。

頓阿『井蛙抄』伝本の奥書や、室町期古記録に見える禁裏本の資料を総合的に検討し、中世後期禁裏周辺における流布・伝存状況を推定し、さらに、近世における伝来過程への

展望を検討した。

※この項は、小林大輔の調査・研究成果に基づく。

(7) 禁裏本周辺の典籍から、禁裏本を逆照射する試みを行う

この項に関しても、多数の成果が得られたが、一点記載しておく。

狩野一溪『後素集』全三巻における『帝鑑図説』の利用を考究する際し、その背景に、禁裏に蓄積されていた典籍・文化的情報があったとの推定を試みた。具体的な典籍の追究だけではなく、このような文化環境的考察も、禁裏本研究において重要な視点であることを明確に示した。

※この項は、小助川元太の調査・研究成果に基づく。

(8) 年1回以上のシンポジウム・研究会を開催し、研究成果の共有をはかるとともに、論文の礎稿作成も企図する

以下の通り、シンポジウム・研究会を開催し、公刊論文の礎稿とした。

①2006年8月25日

シンポジウム「室町後期の禁裏における勅撰集の書写活動」

※於：埼玉大学・東京ステーションカレッジ

【パネラー】

石澤一志「『二十一代集』の成立と「奏覧正本」の行方」

酒井茂幸「文明期禁裏の書写活動の前身—二条家・飛鳥井家撰進の勅撰集を中心に—」

中條敦仁「文明新写禁裏本「二十一代集」の存在意義を問う—飛鳥井雅章筆「二十一代集」を中心に—」

②2006年12月27日

第1回研究会

於：埼玉大学・東京ステーションカレッジ

〈事例報告〉

石澤一志「『後二条天皇御集』書誌 存疑」

小林大輔「『井蛙抄』の伝本における「官本」書き入れについて」

武井和人「御物本・勾当内侍本襖攷」

久保木秀夫「西本願寺本『栄花物語』をめぐって」

〈書写・収書活動〉

相原宏美「『言国卿記』に見る禁裏での書写活動について」

酒井茂幸「後陽成院の収書活動の周縁—高松宮本の文学関係資料から—」

③2007年8月27日

第2回研究会

於：埼玉大学・大宮ソニックシティカレ

ッジ

(研究報告)

武井和人「禁裏本襍攷」

新美哲彦「『源氏物語』本文の自由度—空蟬巻・陽明文庫本と河内本との関係を通して—」

田中幸江「菊亭家とその蔵書について—菊亭文庫研究の課題と展望—」

伊藤慎吾「山科言継・言経と禁裏—能本受容を中心に—」

④2008年9月14日

第3回研究会

於：埼玉大学・東京ステーションカレッジ

(研究報告)

武井和人「冷泉家本『伊勢物語』は金澤文庫本か—金澤文庫本来歴臆断—」

久保木秀夫「萬治四年禁裏焼失本復元の可能性—假名散文を中心に—」

小助川元太「『後素集』における『帝鑑圖説』利用」

(9) 研究成果報告集を刊行した

当初、報告書として刊行する予定であったが、平成20年度より冊子体の報告書が不要となったので、急遽、「報告集」として刊行したものである(2009・3)。

掲載されている論文等は以下の通りである。

《室町後期禁裏本をめぐって》

武井和人「中世禁裏本襍攷」

久保木秀夫「『栄花物語』梅沢本と西本願寺本付、足利将軍家の蔵書」

小林大輔「『井蛙抄』の官本について」

酒井茂幸「『新統古今集』の撰進をめぐって—後花園天皇期の禁裏文庫—」

中條敦仁「文明新写禁裏本「二十一代集」の存在意義を問う—飛鳥井雅章筆「二十一代集」を中心に—」

伊藤慎吾「山科言継・言経と禁裏—謡本の受容をめぐって—」

《禁裏本をめぐる諸問題》

新美哲彦「鎌倉時代における『源氏物語』の書写態度—空蟬巻における陽明文庫本と玉里文庫本を通して—」

石澤一志「『後二條天皇御集』書誌—小考」

小助川元太「『後素集』の『帝鑑図説』利用—狩野一溪の画題理解に関する—考察—」

田中幸江「上野学園大学日本音楽史研究所蔵『禁裏御文庫楽書并御楽器之目録』

《資料篇》

相原宏美「『言国卿記』所引書名索引」

石澤一志「宮内庁書陵部蔵—二十一代集(吉田兼右筆、五一〇—一三)」奥書・識語集成

石澤一志「宮内庁書陵部蔵—二十一代集

(飛鳥井雅章筆、五〇八—二〇八)奥書・識語集成

中條敦仁「国立歴史博物館蔵高松宮家伝来禁裏本二十一代集—奥書・識語」

武井和人「薬師寺蔵「持明院家歌道書道聞書傳書」略目録(稿)」

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6件)

①酒井茂幸、東山御文庫本『古官庫歌書目録』と岩瀬文庫本『官本目録』の成立について、研究と資料、第56輯、19~26頁、2006、査読・無

②酒井茂幸、文明期禁裏における歌書の書写活動をめぐって、國語國文、第77巻5号、38~53頁、2008、査読・有

③酒井茂幸、戦国期の禁裏の蔵書と古典学、研究と資料、第59輯、9~25頁、2008、査読・無

④武井和人、薬師寺蔵「持明院家歌道書道聞書傳書」略目録(稿)、研究と資料、第59輯、49~70頁、2008、査読・無

⑤久保木秀夫、『栄花物語』梅沢本と西本願寺本付、足利将軍家の蔵書、研究と資料、第60輯、23~35頁、2008、査読・無

⑥酒井茂幸、『新統古今集』の撰進をめぐって—後花園天皇期の禁裏文庫—、國語と國文學、第86巻1号、42~54頁、2009、査読・有

[学会発表](計 0件)

[図書](計 1件)

①武井和人編、『中世後期禁裏本の復元的研究』、非売品、180頁、2009

※内容は、4-(9)参照

[産業財産権]

○出願状況(計 0件)

○取得状況(計 0件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

武井 和人(TAKEI KAZUTO)

埼玉大学・教養学部・教授

研究者番号:80154962

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

久保木 秀夫(KUBOKI HIDEO)

国文学研究資料館・助教

研究者番号:50311163

住吉 朋彦(SUMIYOSHI TOMOHIKO)

慶應義塾大学・斯道文庫・准教授

研究者番号:80327668

小助川 元太(JOSUKEGAWA GANTA)

呉工業高等専門学校・国語科・准教授

研究者番号:30353311

新美 哲彦(NIIMI AKIHIKO)

ノートルダム清心女子大学・文学部・

専任講師

研究者番号:90390492

石澤 一志(ISHIZAWA KAZUSHI)

目白大学・社会学部・専任講師

研究者番号:30507752

(4) 研究協力者

小川剛生(OGAWA TAKEO)

国文学研究資料館・准教授)

研究者番号:30295117

小林大輔(KOBAYASHI DAISUKE)

早稲田大学本庄高等学院・教諭

池和田有紀(IKEWADA YUKI)

宮内庁書陵部

酒井茂幸(SAKAI SHIGEYUKI)

埼玉大学・大学院・文化科学研究科・

非常勤講師

相原宏美(AIHARA HIROMI)

広島大学・大学院・文学研究科・博士

後期課程単位取得退学

田中幸江(TANAKA YUKIE)

二松学舎大学・非常勤講師

中條敦仁(CHUJO ATSUHITO)

皇學館高等学校・常勤講師

伊藤慎吾(ITO SHINGO)

恵泉女学園大学・人文学部・非常勤

講師